



六年生から引き継がれる立北のバトン

コンコンコン……「しつれいします」と元気な一年生が校長室にやって来ました。「あの写真はなんですか?」「どうしてソファがあるんですか?」…と早速の質問攻めを受けました。思えば昨年の春、小学校に戸惑いながら入学してきた一年生も、今では学校生活に慣れ、笑顔いっぱい過ごしています。「入学の時にくらべて今の気持ちはどうですか?」と私から逆に質問をしてみると、口々に「楽しいよ!」「友だちたくさんできたよ!」…と答えが返ってきました。その中に「一緒に掃除をしてくれた」「やさしく遊んでくれた」という六年生のお話がよく出てくるのです。一年生にとって六年生がどれだけ大きな存在なのかを感じることができる時間でした。

一年生だけではありません。立花北の子どもたちは、よく働きます。雑巾に穴が開くくらい、一生懸命に廊下を磨きます。実は、これも六年生がしっかりと姿で伝えていることです。先日の『にこにこ交流会』でも、下級生たちは、会を進めてくれる六年生の姿を頼もしく見つめていました。



その六年生が、先日は神戸のお別れ遠足に出かけました。グループで誘い合って時間通りに立花駅に集合し、自分で切符を買って電車に乗り、元町駅で下車して目的地を目指します。列になってついて行くだけの遠足とは違い、五感をフルに働かせながら、メリケンパークに到着した六年生。時間も電車内のルールも自分たちできちんと守り、さすが



『立北の顔』という姿をしっかりと見せてくれました。

6年生を送る会も終わり、みんなが憧れる六年生も、いよいよあと二週間で卒業です。在校生は、今のうちにしっかりと六年生の姿を目に焼き付けてほしいと思います。

続く在校生も頑張っています!

在校生たちはバトンを受け取ります。五年生は、5泊6日の自然学校で、「協力」や「助け合い」の大切さを学び、ひと回りたくましくなって帰って来ました。四年生は、2分の1成人式で「なりたい自分の姿」を発表し、お家の方々に感謝の気持ちを伝えることができました。



児童会選挙では、みんなのために頑張りたい気持ちをしっかりとった子どもたちが、たくさん立候補してくれました。その勇気に心から拍手を贈りたいと思います。大勢の前で堂々と自分の考えを話す子どもたちの姿はととても頼もしく見えました。



3月のテーマは、「成長」そして「感謝」

「卒業式」で六年生は、これまでの思い出を振り返り、成長した自分たちの姿を言葉と立ち振る舞いで表現します。そして、これまで支えていただいた全ての方々に感謝の気持ちを伝えます。一年生から五年生も、この一年の自分や友だちの成長をしっかりと振り返って、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えられると素晴らしいですね。